

# 外来でのがん治療における 病院薬剤師の役割に関する アンケート調査

京都大学医学部附属病院 薬剤部

杉本 充弘

背景： 現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/  
シエアの推進について

厚生労働省医政局長通知（医政発0930第16号）令和3年9月30日

## 薬剤師

- ① 周術期における薬学的管理等
- ② 病棟等における薬学的管理等
- ③ 事前に取り決めたプロトコールに沿って行う処方された薬剤の投与量の変更等

薬剤師が、医師・薬剤師等により事前に取り決めたプロトコールに基づき、薬物治療モニタリング(TDM)や検査のオーダーを医師等と協働して実施し、医師の指示により実施された検査の結果等を確認することで、治療効果等の確認を行い、必要に応じて、医師に対する薬剤の提案、医師による処方の範囲内での薬剤の投与量・投与期間(投与間隔)の変更を行うことは可能である。投与量・投与期間(投与間隔)の変更を行った場合は、医師、看護師等と十分な情報共有を行う必要がある。

プロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)

- ④ 薬物療法に関する説明等
- ⑤ 医師への処方提案等の処方支援
- ⑥ 糖尿病患者等における自己注射や自己血糖測定等の実技指導

一般社団法人 日本病院薬剤師会  
タスク・シフティング推進特別委員会

## タスク・シフティングに関連する取り組み特設サイトの開設について

平素より日本病院薬剤師会の活動にご高配を賜りお礼申し上げます。

昨今の医療現場においては、急速な医療技術の高度化や新薬の登場などによる薬物療法の複雑化への対応等が求められており、すでに一部の施設では、病棟や集中治療室、手術室、救命救急センター等において、処方提案などを通じて薬剤師が積極的に薬物療法の適正化に取り組むことにより、働き方改革の最重要課題である医師等の業務負担軽減にも大きく寄与していると考えられております。医師等の働き方改革の推進を図ること等を目的として、薬剤師のタスク・シフティングに関連する取り組みを募集しております。本事業は、厚生労働省医政局補助金事業「令和2年度病院薬剤師を活用したタスク・シフティング推進事業」として厚生労働省から委託を受けて実施しております。

お送りいただいた事例は、本会に設置したタスク・シフティング推進事業特別委員会で検討し、この度、好事例をタスク・シフティングに関連する取り組み特設サイトで公開することといたしました。順次、コンテンツ・事例は充実していく予定です。

また、引き続き、タスク・シフティングに関連する取り組み事例を募集しておりますので、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

[タスク・シフティングに関連する取り組み特設サイト](#)

[タスク・シフティングに関連する取り組み事例収集](#)

# 背景：タスク・シフト/シェア取り組み事例～がん関連領域

## 日本病院薬剤師会 タスク・シフティングに関連する取り組み事例

絞り込み検索

全件表示

| 都道府県 | 機能種別 | 病床数 | 薬剤師数 | 取り組み名                                      |
|------|------|-----|------|--|
| 北海道  | 一般   | 199 | 14   | 免疫抑制・化学療法治療患者におけるB型肝炎検査代行オーダ               |
| 新潟県  | 一般   | 827 | 60   | 外来注射抗がん剤投与患者に対する診察前面談の実施                   |
| 高知県  | 一般   | 512 | 25   | PBPMに基づくイリノテカン由来遅延性下痢およびコリン作動性症状に対するプロトコール |
| 東京都  | 一般   | 400 | 25   | 外来がん治療患者への医師診察前介入、副作用確認                    |
| 愛知県  | 一般   | 594 | 38   | がん患者に対する薬剤師外来の取り組み                         |

# 背景・目的

---

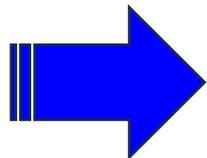
タスク・シフト/シェアが推進され、薬剤師の業務が大きく変革している。特に、がん化学療法において、処方・検査の代行オーダーや診察前面談など医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアが多く、多くの施設で進みつつあるものの、がん患者が病院薬剤師に求める役割を調査した報告は少ない。

# 背景・目的

---

タスク・シフト/シェアが推進され、薬剤師の業務が大きく変革している。特に、がん化学療法において、処方・検査の代行オーダーや診察前面談など医師から病院薬剤師へのタスク・シフト/シェアが多く、多くの施設で進みつつあるものの、がん患者が病院薬剤師に求める役割を調査した報告は少ない。

患者のニーズを把握し、病院薬剤師が患者の期待に応えるために何ができるのかを解明できれば、本質的なタスク・シフト/シェアの推進につながる。



病院薬剤師に対するがん患者のニーズについて、アンケート調査より明らかにすることとした。

# アンケート調査

---

## 調査期間

- ・ 2023年9月1日～9月30日

## 調査施設

- ・ 京都大学医学部附属病院
- ・ 岐阜大学医学部附属病院
- ・ 伊勢赤十字病院

## 対象患者

- ・ 外来で通院してがん治療を受けている患者

## アンケート内容のブラッシュアップ

- ・ アンケートを作成した後、公衆衛生学専門家およびがん患者団体の方々に確認いただき、それぞれの意見を反映して最終化した

# アンケート①

## 患者の属性およびがんに関する基本情報

### あなた(患者さん)のこについて教えてください

- 問1. 性別  
 男性  女性
- 問2. 年齢  
 0～19歳  20～39歳  40～59歳  60～79歳  80歳以上
- 問3. がんの種類  
 白血病  悪性リンパ腫  脳腫瘍  甲状腺がん  肺がん  
 乳がん  胃がん  肝臓がん  膵臓がん  大腸がん  
 子宮頸がん  子宮体がん  卵巣がん  膀胱がん  骨・軟部腫瘍  
 その他( )
- 問4. がんと最初に診断されてから現在までの期間(治療していない期間も含む)  
 3ヶ月以内  3ヶ月～1年  1年～2年  2～5年  5年以上
- 問5. 現在、使用中の抗がん剤について  
 抗がん剤は使用していない  
 飲み薬のみ  
 注射薬(点滴、皮下注射、筋肉内注射)のみ  
 飲み薬と注射薬(点滴、皮下注射、筋肉内注射)の併用
- 問6. 現在、がんや抗がん剤の治療に伴う症状などで抱えている問題はありますか？  
 ない  
 ある(以下からあてはまるものをすべて○で囲んでください)  
・便秘 ・下痢 ・吐き気 ・口内炎 ・しびれ ・痛み ・皮疹  
・疲労感や倦怠感 ・味覚異常や食欲低下 ・感染症予防 ・血压管理  
・その他( )
- 問7. 病気のことや薬のことについて、気軽に相談できる薬剤師はいますか？  
 いない  
 いる(病院薬剤師)  
 いる(薬局薬剤師)
- 問8. これまでに病院薬剤師と、お薬のことについて相談する機会がありましたか？  
 ある  
 ない

# アンケート①

患者の属性およびがんに関する基本情報

がんの種類

がんと最初に診断されてから現在までの期間  
(治療していない期間も含む)

現在使用中の抗がん剤の剤型  
(内服薬/注射薬(点滴、皮下))

がんや抗がん剤の治療に伴う症状などで  
抱えている問題

病気のことや薬のことについて、  
気軽に相談できる薬剤師の有無

病院薬剤師との相談機会の有無

[あなた(患者さん)のことについて教えてください]

問1. 性別

男性  女性

性別

問2. 年齢

0~19歳  20~39歳  40~59歳  60~79歳  80歳以上

年代

問3. がんの種類

白血病  悪性リンパ腫  脳腫瘍  甲状腺がん  肺がん  
 乳がん  胃がん  肝臓がん  膵臓がん  大腸がん  
 子宮頸がん  子宮体がん  卵巣がん  膀胱がん  骨・軟部腫瘍  
 その他( )

問4. がんと最初に診断されてから現在までの期間(治療していない期間も含む)

3ヶ月以内  3ヶ月~1年  1年~2年  2~5年  5年以上

問5. 現在、使用中の抗がん剤について

抗がん剤は使用していない  
 飲み薬のみ  
 注射薬(点滴、皮下注射、筋肉内注射)のみ  
 飲み薬と注射薬(点滴、皮下注射、筋肉内注射)の併用

問6. 現在、がんや抗がん剤の治療に伴う症状などで抱えている問題はありますか？

ない  
 ある(以下からあてはまるものをすべて○で囲んでください)  
・便秘 ・下痢 ・吐き気 ・口内炎 ・しびれ ・痛み ・皮疹  
・疲労感や倦怠感 ・味覚異常や食欲低下 ・感染症予防 ・血圧管理  
・その他( )

問7. 病気のことや薬のことについて、気軽に相談できる薬剤師はいますか？

いない  
 いる(病院薬剤師)  
 いる(薬局薬剤師)

問8. これまでに病院薬剤師と、お薬のことについて相談する機会がありましたか？

ある  
 ない

# アンケート②

がん治療を受けるにあたり、普段感じていることを教えてください

【以下の質問では、がん治療を受けるにあたり、普段感じていることを教えてください】

問9. がん治療を継続していく中で、治療のこと以外にもお薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、自分の思いや聞きたいことについて、診察時に医師に十分伝えられていますか？(複数回答可)

- 十分伝えられている
- 伝えきれていない(診察時間が短くて伝えきれないため)
- 伝えきれていない(診察時に言いたいことを思い出せないため)
- 伝えきれていない(雰囲気がよくなく言い出せないため)
- 伝えきれていない(その他の理由があれば、以下の欄に理由を記載して下さい)

問10. がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいですか？

- 病院薬剤師にも相談したい
- 医師や看護師にしか相談したくない(以下の欄に理由を記載して下さい)

# アンケート②

【以下の質問では、がん治療を受けるにあたり、普段感じていることを教えてください】

問9. がん治療を継続していく中で、治療のこと以外にもお薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、自分の思いや聞きたいことについて、診察時に医師に十分伝えられていますか？（複数回答可）

がん治療を継続していく中で、治療のこと以外にもお薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、自分の思いや聞きたいことについて、診察時に医師に十分伝えられていますか？（複数回答可）

- 十分伝えられている
- 伝えきれていない（診察時間が短くて伝えきれないため）
- 伝えきれていない（診察時に言いたいことを思い出せないため）
- 伝えきれていない（雰囲気がよくなく言い出せないため）
- 伝えきれていない（その他の理由があれば、以下の欄に理由を記載して下さい）

問10. がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいですか？

- 病院薬剤師にも相談したい
- 医師や看護師にしか相談したくない（以下の欄に理由を記載して下さい）

がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいですか？

- 病院薬剤師にも相談したい
- 医師や看護師にしか相談したくない（以下の欄に理由を記載して下さい）

# アンケート③

病院薬剤師に関わってほしいことを  
教えてください

問11. ポスターの中で、病院薬剤師に関わってほしいこと、相談したいことを選んで該当する番号をすべて○で囲んで下さい。

(回答) 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10  
11・12・13・14・15・16・17・18・19・20

その他にも具体的に病院薬剤師に関わってほしいことがあれば、自由に記載して下さい。

問12. 問11の中で、病院薬剤師に関わってほしいこと上位3つを選んで、番号を記載して下さい。

回答 (            ), (            ), (            )

問13. 病院薬剤師に望むことがあればご自由に記載して下さい。(余白や別紙に記載頂いても結構です)

以上でアンケートは終了です。

同封の返信用封筒に入れて、アンケート用紙をポストに投函して下さい。

この度はアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。



# がん治療中の皆さんが抱える様々な悩みや問題に対して 病院薬剤師が支援できることがあります 薬剤師までご相談ください



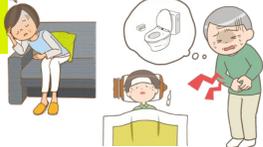
## がん・がん治療に関すること

1



抗がん薬の作用の仕方・  
効能・効果に関する説明

2



がん治療に伴う副作用  
に関する説明・相談

3



副作用症状を和らげる  
薬についての提案

4



主治医に相談しづらい・  
聞けずに悩んでいること  
に関する相談

5



がんの治療費に  
関する相談

6



がん治療に関する悩み  
心のケア

7



がんの痛みに関する相談  
(緩和ケア)

8



痛みの緩和に用いる  
医療用麻薬に関する  
説明・情報提供

9



在宅療養・ホスピスに  
関する相談・支援

10



がんの新規治療法  
(治験や臨床試験など)  
に関する情報提供

## がん治療以外のお薬に関すること

11



がん治療に関わりのない  
常用薬に関する相談

12



服用が苦手な薬（錠剤・  
カプセル・粉薬等）に  
関する相談

13



服用できずに手元に余って  
いる薬の調整に関する相談  
(薬を減らす相談)

14



サプリメントや市販薬  
についての相談

15



薬の飲み合わせに関する  
確認、情報提供

16



薬の服用状況の確認  
服薬状況改善のための支援

## がん治療中の日常生活に関すること

17



日常生活での注意点や生活  
習慣に関する説明・相談

18



がん治療中の仕事や学業  
に関する相談・支援

19



栄養指導  
食事指導

20



がん治療による  
妊娠・出産への影響  
についての相談

# アンケート③

病院薬剤師に関わってほしいことを  
教えてください

ポスターの中で、病院薬剤師に関わってほしいこと、相談したいことを選んで該当する番号  
をすべて○で囲んで下さい。

その他にも病院薬剤師に具体的に関わってほしいことがあれば、自由に記載してください。

その中で、病院薬剤師に関わってほしいこと上位3つを選んで、番号を記載してください。

問11. ポスターの中で、病院薬剤師に関わってほしいこと、相談したいことを選んで該当する番号  
をすべて○で囲んで下さい。

(回答) 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10  
11・12・13・14・15・16・17・18・19・20

その他にも具体的に病院薬剤師に関わってほしいことがあれば、自由に記載して下さい。

問12. 問11の中で、病院薬剤師に関わってほしいこと上位3つを選んで、番号を記載して下さい。  
回答 ( )、( )、( )

問13. 病院薬剤師に望むことがあればご自由に記載して下さい。(余白や別紙に記載頂いても結構です)

病院薬剤師に望むことがあればご自由に記載してください。

以上でアンケートは終了です。

同封の返信用封筒に入れて、アンケート用紙をポストに投函してください。

この度はアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

# アンケート調査の解析対象

アンケートを配布した人数  
310

アンケートの回答が得られた人数  
244

除外

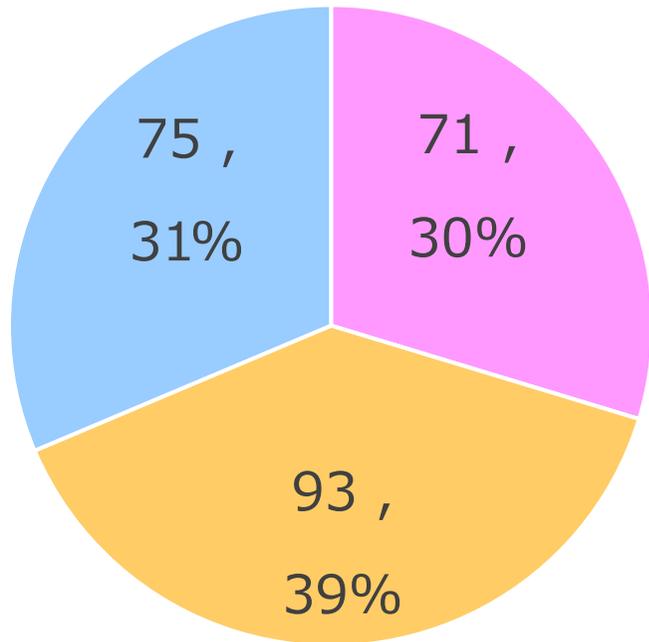
患者の属性およびがんに関する  
基本情報の回答がない

5

解析したアンケート数  
239

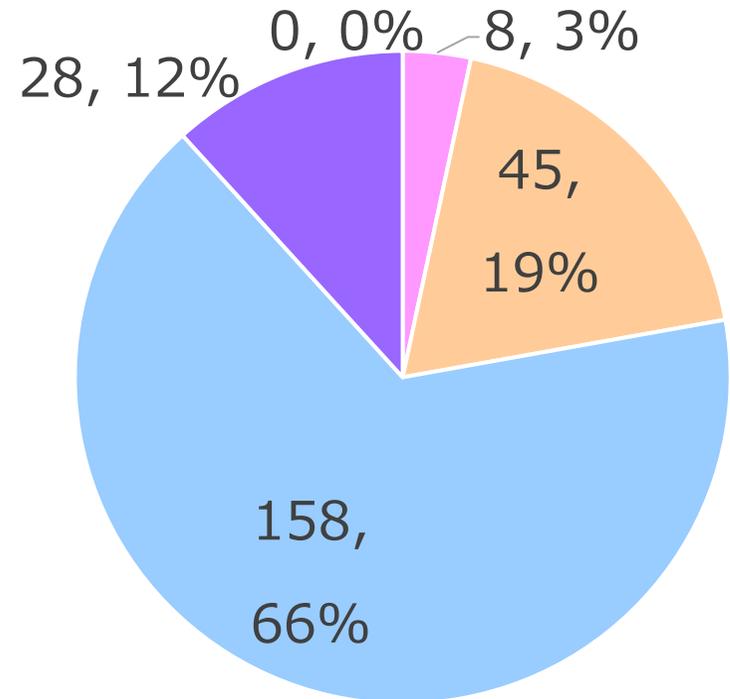
# アンケート調査結果～年齢分布

回答施設 (N=239)



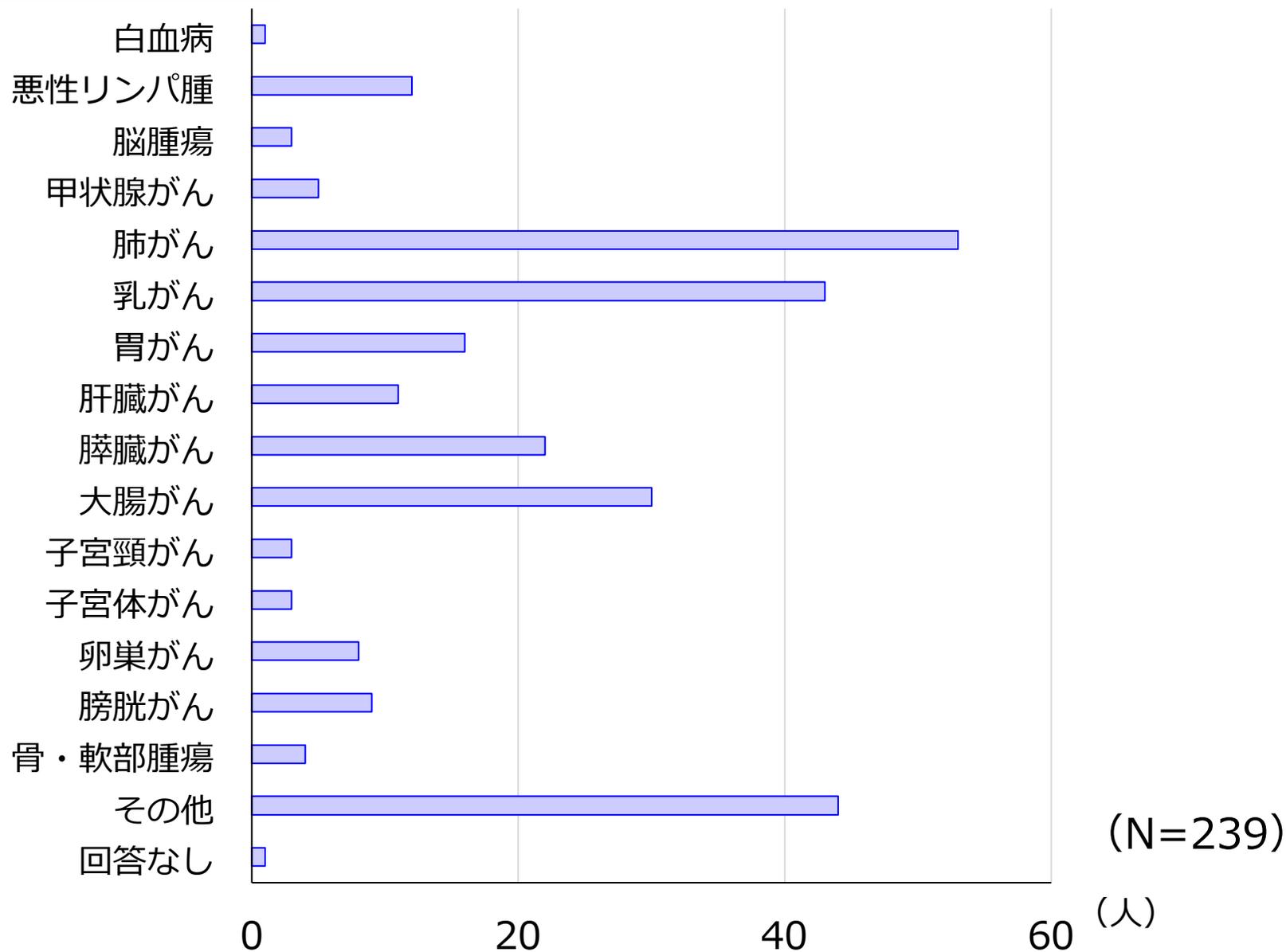
- 伊勢赤十字病院
- 岐阜大学医学部附属病院
- 京都大学医学部附属病院

年齢 (N=239)

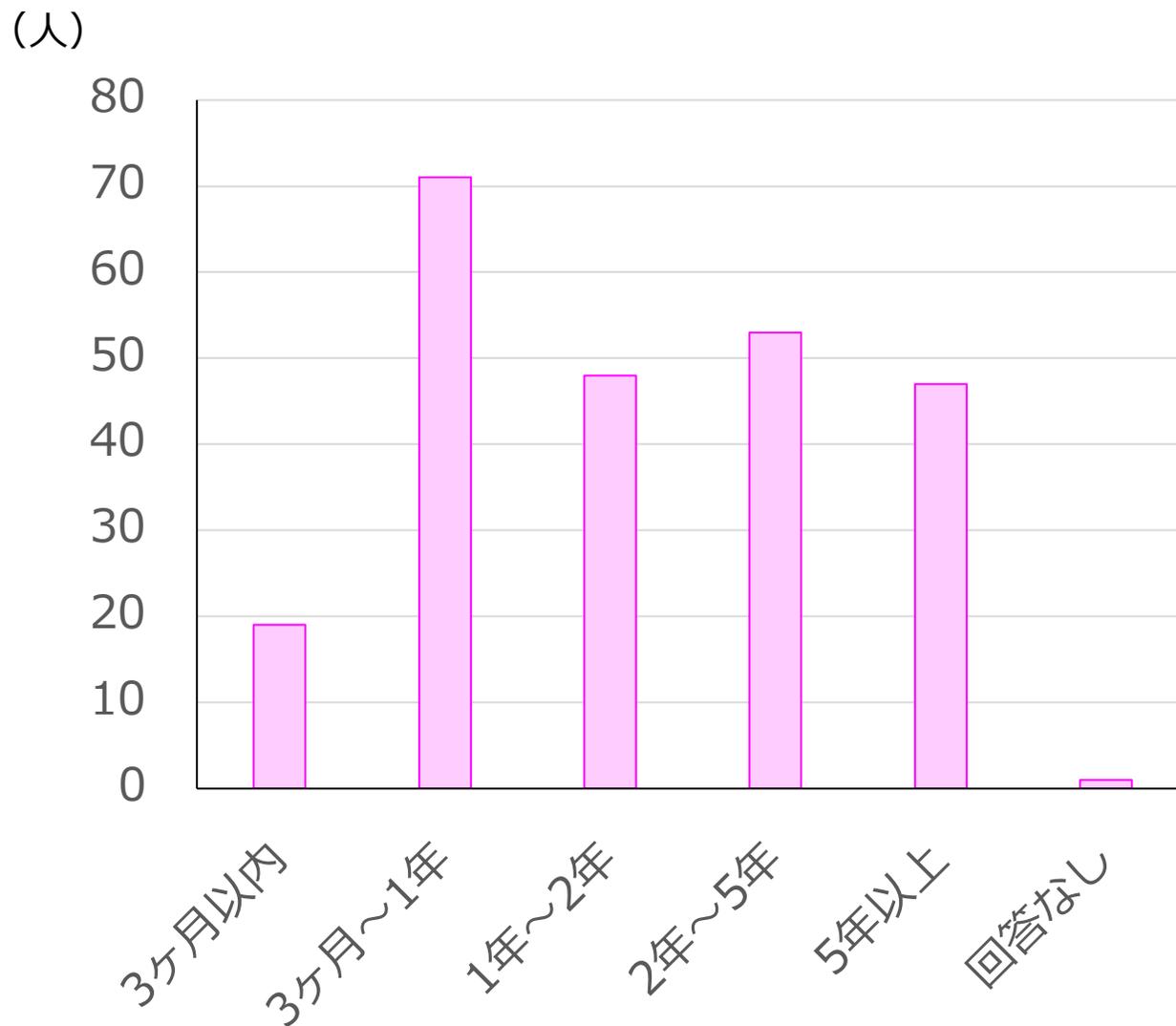


- 0～19歳
- 20～39歳
- 40～59歳
- 60～79歳
- 80歳以上

# アンケート調査結果～癌腫（複数回答）



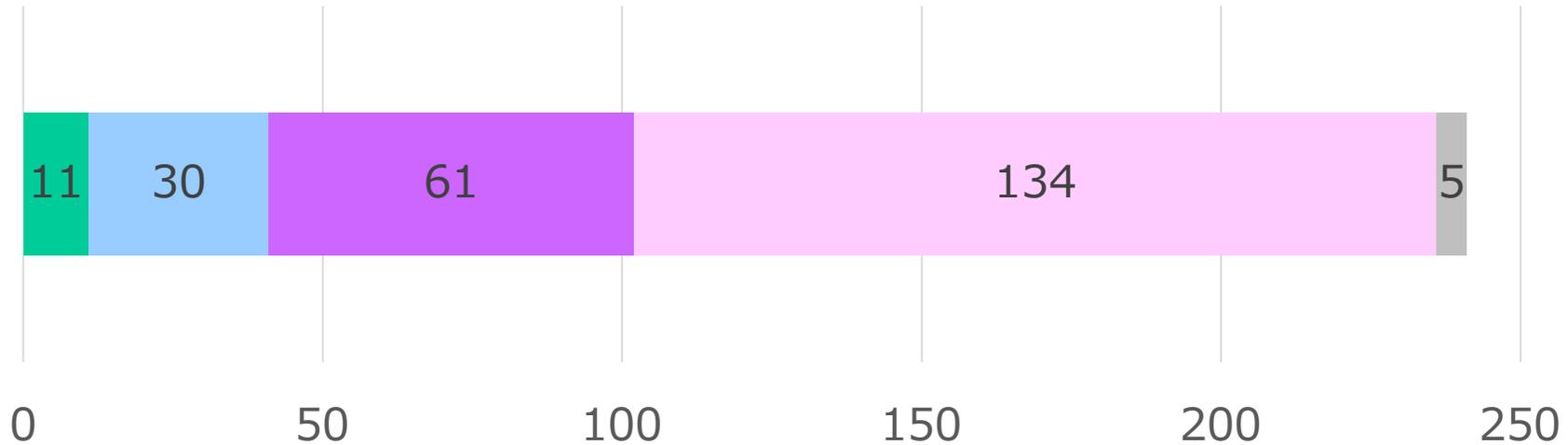
# アンケート調査結果～罹患期間



(N=239)

# アンケート調査結果～使用中の薬剤の剤形

(N=239)



■ 抗がん剤は使用していない

■ 飲み薬のみ

(人)

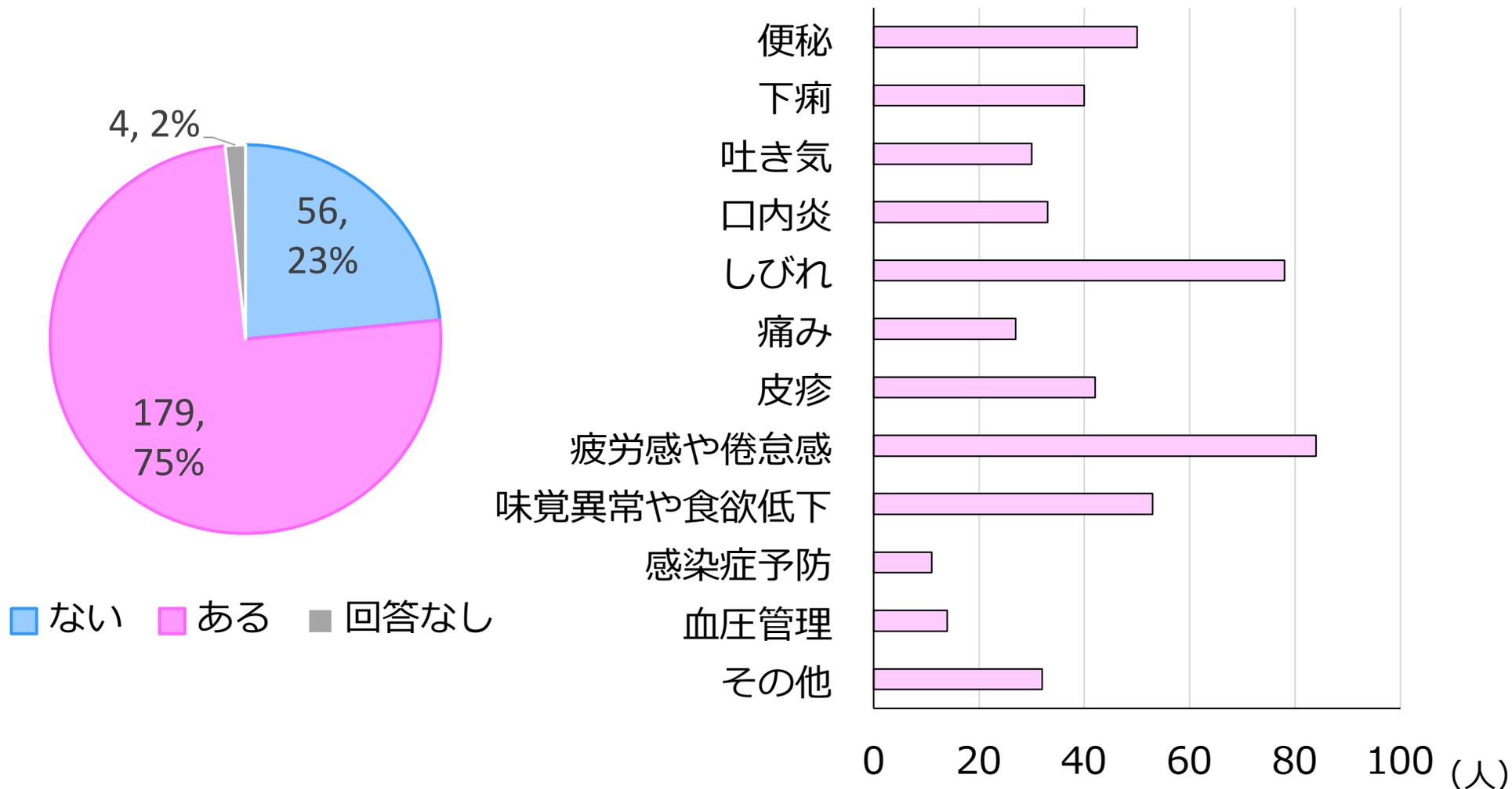
■ 飲み薬と注射薬（点滴、皮下注射、筋肉内注射）の併用

■ 注射薬（点滴、皮下注射、筋肉内注射）のみ

■ 回答なし

# アンケート調査結果～有害反応

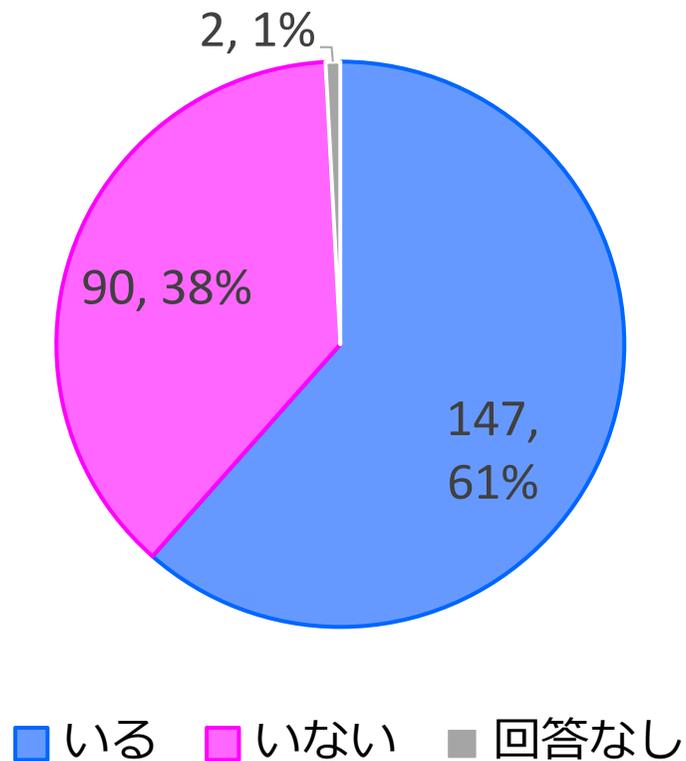
がんや抗がん剤治療に伴う症状で抱えている問題はありますか？ (N=239)



# アンケート調査結果～相談できる薬剤師

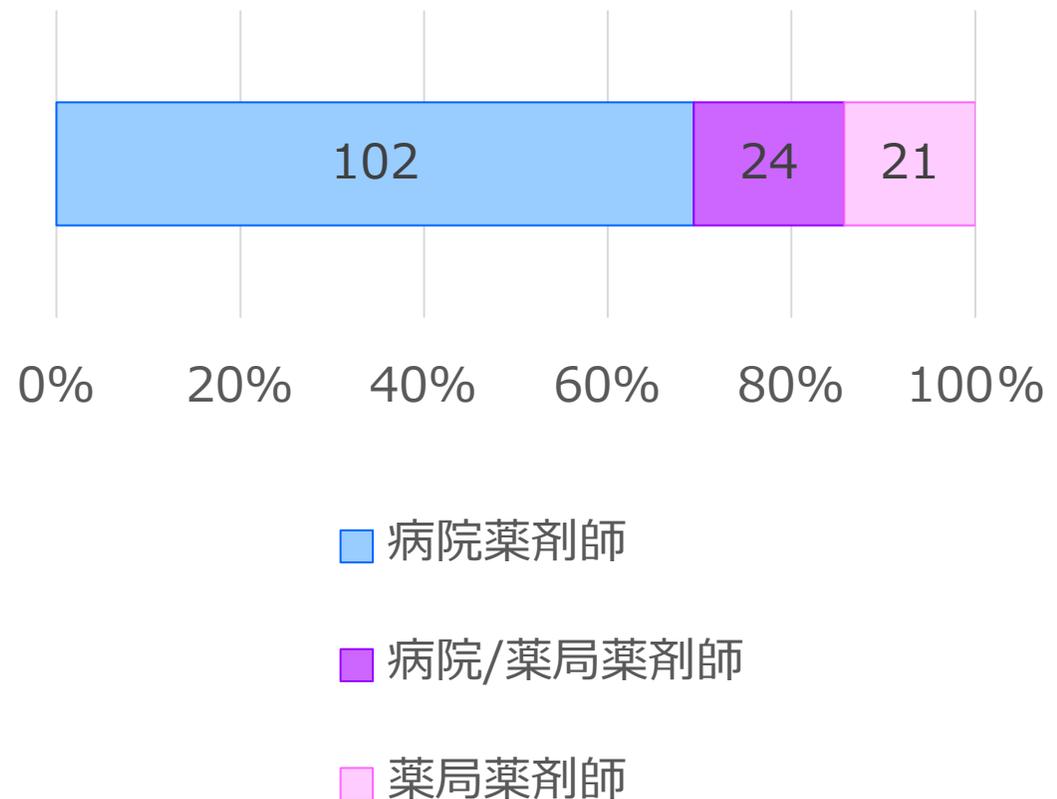
気軽に相談できる薬剤師はいますか？

(N=239)



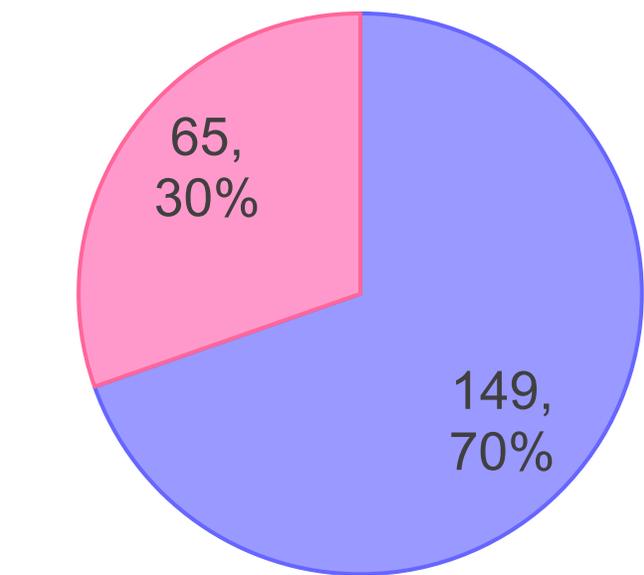
相談できる薬剤師の病院/薬局の比率

(N=147)



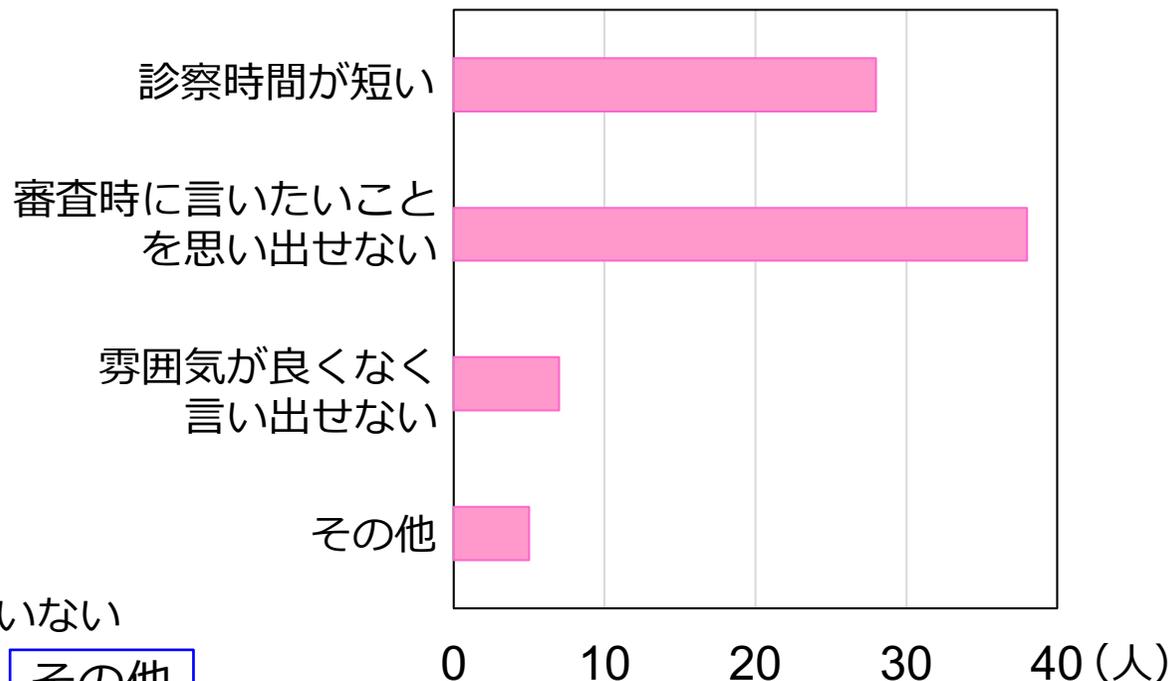
# アンケート調査結果～医師との面談

がん治療を継続していく中で、治療のこと以外にもお薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、医師に思いや聞きたいことについて診察時に伝えられていますか？ (N=214, 回答なし:25)



■ 十分伝えられている ■ 伝えきれしていない

伝えきれしていない理由 (複数回答)

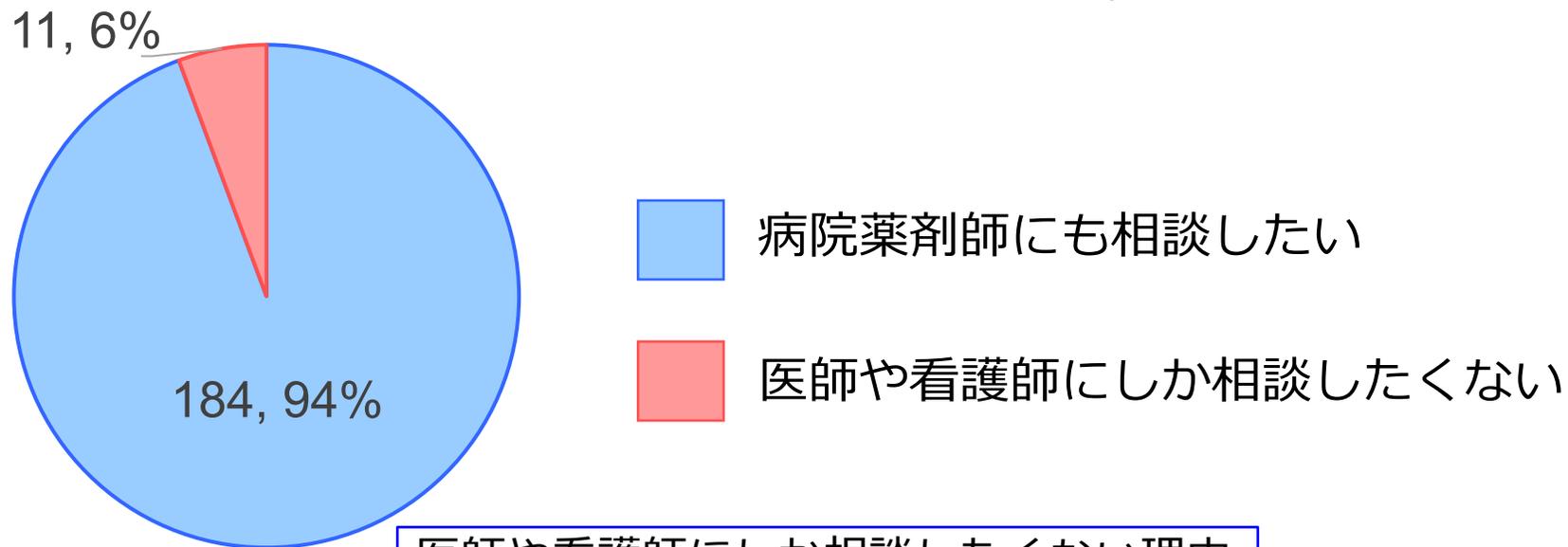


その他

- ・ 毎回人が変わるから
- ・ まだ治療が始まったばかりなので仕方ないが、とにかく医者には相談しづらい
- ・ 特に薬剤に関する説明が今ひとつで、その治療法についても十分に理解できない
- ・ こちらから聞かないと、細かい内容を言ってくれない
- ・ 質問しても、丁寧に教えてくれない。声を荒らげてくるからこわい

# アンケート調査結果～薬剤師への相談

がん治療を継続していく中で、お薬のことや副作用のこと、日常生活での注意点など、病院薬剤師にも相談したいですか？ (N=195, 回答なし:44)

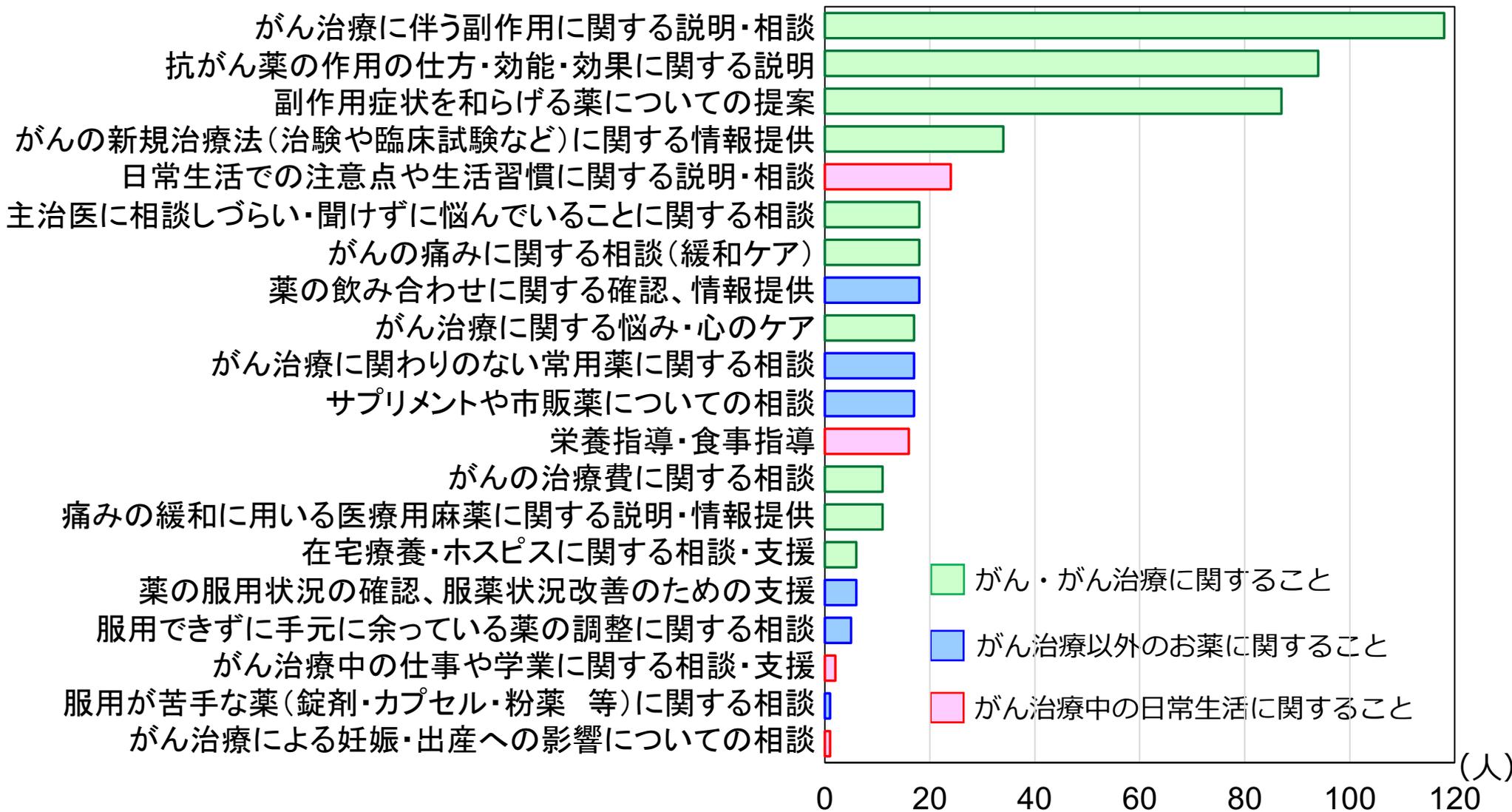


## 医師や看護師にしか相談したくない理由

- 医師に話しやすいので
- 医師や看護師の方が聞いてくれているので、薬剤師の方に相談することが今は思い当たらない
- 放射線療法とホルモン療法の併用で、薬剤師に対しての相談する必要性を今のところ感じていません
- 何度か治療を受けている間に質問することも解決していっています

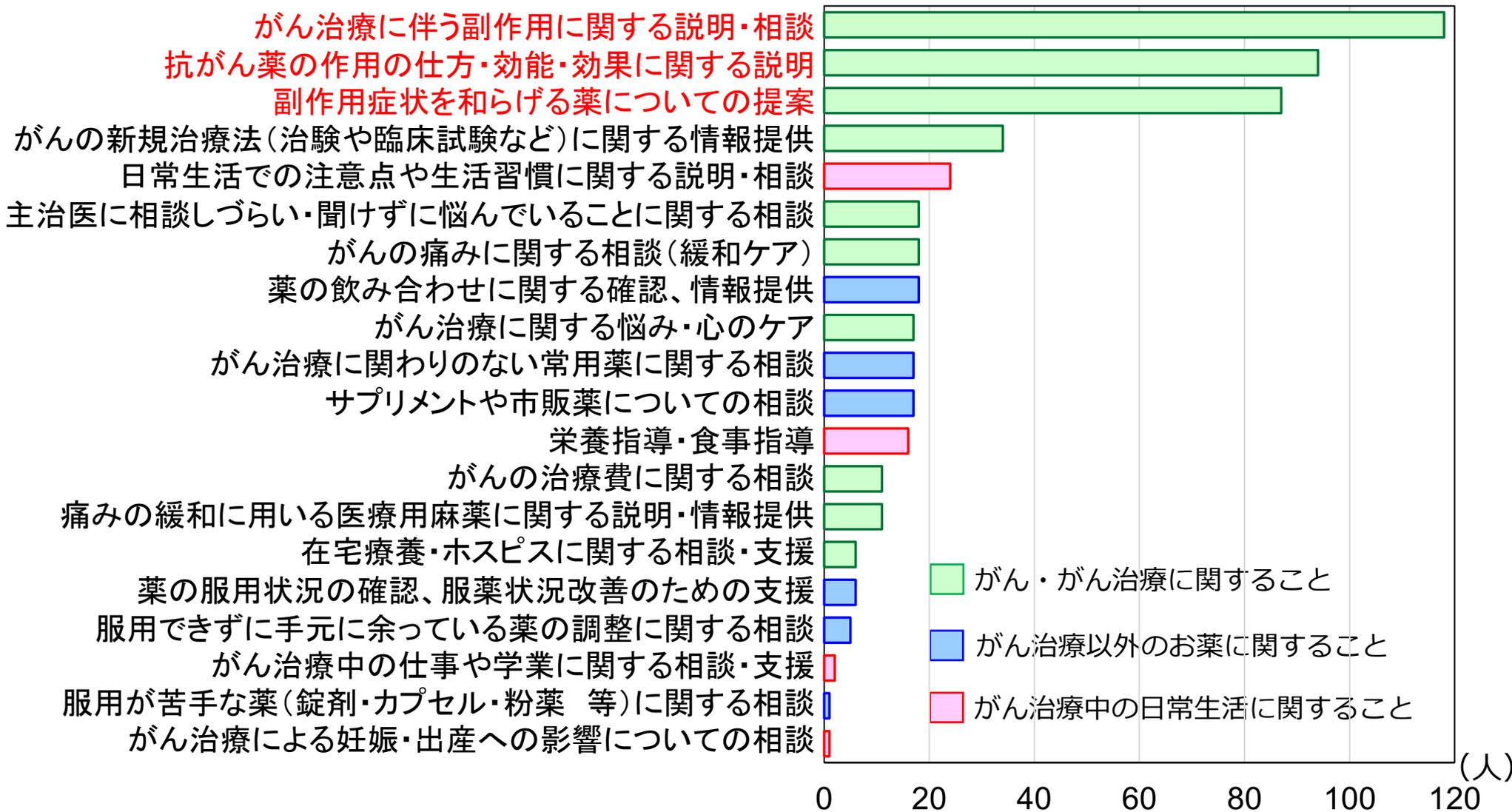
# アンケート調査結果～薬剤師との関わり-1

薬剤師に関わってほしいことを複数選択 (1人3項目まで、N=180, 回答なし:59)



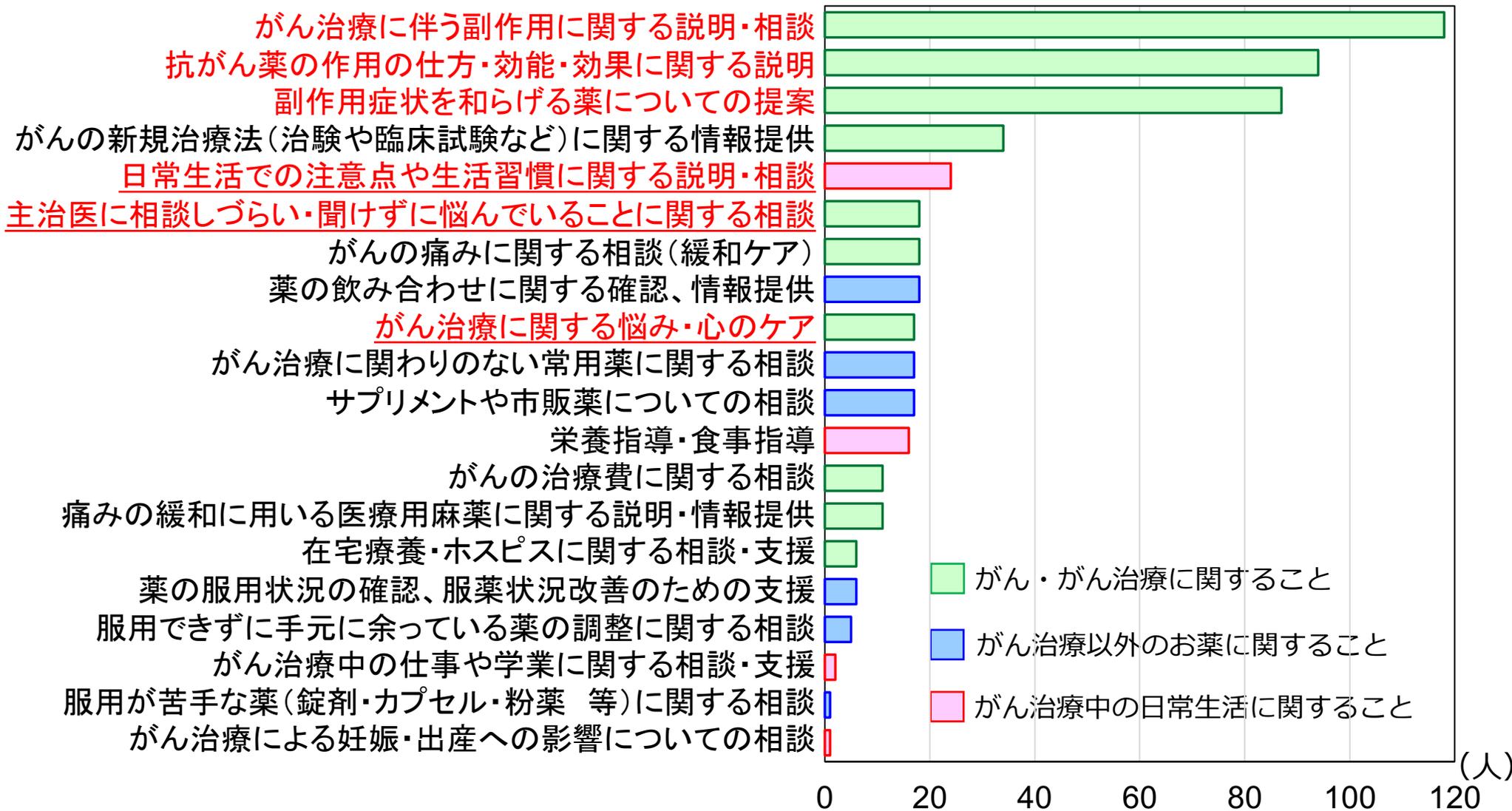
# アンケート調査結果～薬剤師との関わり-1

薬剤師に関わってほしいことを複数選択 (1人3項目まで、N=180, 回答なし:59)



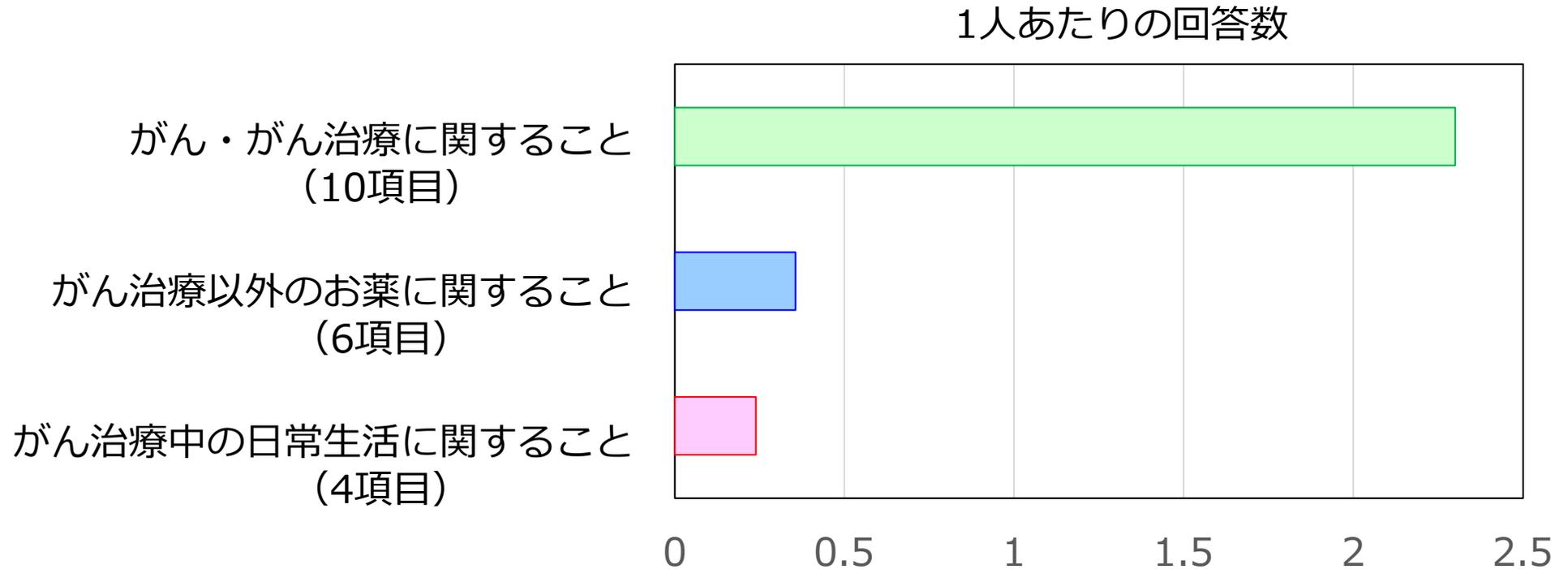
# アンケート調査結果～薬剤師との関わり-1

薬剤師に関わってほしいことを複数選択 (1人3項目まで、N=180, 回答なし:59)

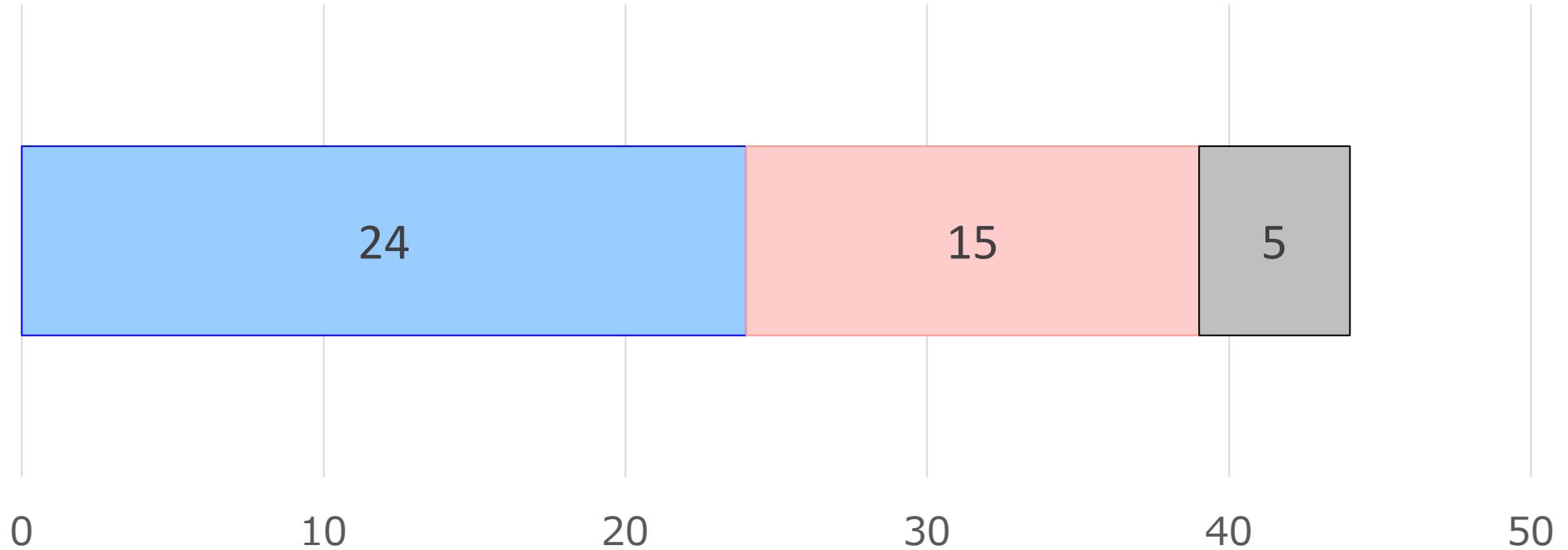


# アンケート調査結果～薬剤師との関わり-2

薬剤師に関わってほしいことを複数選択 (1人3項目まで、N=180, 回答なし:59)



# アンケート調査結果～病院薬剤師に望むこと



■ 薬剤師に相談できる時間・場所の提供

■ 抗がん薬治療、副作用等についての説明

■ その他

# アンケート調査結果～病院薬剤師に望むこと①

## 薬剤師に相談できる時間・場所の提供

通院でも、いつでも相談できたら良いと思う。

外来や入院の時、Drと薬剤師さんが一緒に話しをして（聞いて）ほしい。

現状は点滴中しか時間がないが、薬剤師とじっくりと相談できる時間・場所を提供してほしい。

薬剤師さんと会話できる機会が多々あるので、その時に相談にのってもらっているので、安心できる。

上から話してくる医者と看護師と違い、優しく話してくれる。こういう人には相談しやすいと思うので、薬剤師は重要だと思う。

がん治療を受けるのは無論初めてのことであり、何かと知らないことばかりです。よって診察前とか診察・治療後とかに、少し接する時を作っていただき、話をしていただいたら「ホッと」する思いになるのでは…と想ったりします…。

自分の聞きたいことは薬剤師さんに全て、薬剤師さんの分野ではないかとも思うことも相談しています。医師の対応は画一的であったり、何か質問しにくい時もあるのですが、薬剤師さんにはリラックスしてなんでも聞けるので助かっています。病院の診察室の中で薬剤師さんの笑顔が一番ホツとし、リラックスしてお話しできます。

# アンケート調査結果～病院薬剤師に望むこと②

## 抗がん剤治療、副作用等についての説明

抗がん剤で命や生活に支障をきたす副作用について細かい情報などくれたらありがたいです。

自分用の抗がん剤注入の進行状況がわかるA3サイズの表を作ってもらって、毎日の確認、チェックができ、重宝しています。引き続きお願いできれば幸いです。

状態が悪く入院中、口内炎がひどく食事が摂れなかった時、薬の使い方をていねいに聞くことができ、良かったです。ベッドまで来てくださって助かりました。これからもお願い致します。

医師と薬剤師に同じ副作用の症状のことを伝えると、医師からは提案のなかった薬の情報を教えてもらえるので、とても助かってます。薬の幅広い知識を持って、提案・相談にのってくれることを望みます。

薬の作用・副作用について医師からも聞くが、薬剤師からプラスで教えてもらえると「医師が言っていた事はそういう事だったのか」と思えることもあるのでありがたいです。また、副作用を和らげる薬についても何種類あってどんな違いがあるか教えてもらっている事、助かっています。

抗がん薬を治療して今日で1週間です。初日に病院薬剤師さんに、治療の概要・副作用・そして副作用の対処方法等説明あり、また本日も1週間後の副作用症状を和らげる提案がありました。今後、治療の悩みが出たらよく相談したい。

# アンケート調査結果～病院薬剤師に望むこと③

## その他

医師への伝言（特に聞き忘れたこと）。

抗がん剤治療で入院中、ベッドで横になっている時に嘔吐して、吐瀉物で口の中がいっぱいになりナースコールで話せなかった時、ちょうど担当薬剤師が見回りに来てくれ、ナースステーションに知らせてくれて助かりました。医師や看護師だけでなく、見回りしてもらえたら安心します。

普段は医師とのコミュニケーションが中心となっているので、薬剤師の方と直接会話する機会はほとんどない。仕事の内容もくわしくはわからず、どのように質問をすれば良いのか、質問しにくくなっていると思うので、積極的に話しかけてもらえれば、話しやすくなると思う。

# まとめ

---

- 医師の診察時間は限られているため、医師に聞きたいことを十分に聞けていない患者が少なくないことが明らかとなった。医師の診察時間が短い現状において、病院薬剤師には医師と患者をつなぐ役割が求められていると考えられる。
- 抗がん薬の説明や副作用マネジメント以外にも、主治医に聞けずに悩んでいることに関する相談など、多岐にわたる患者への関わりが求められており、外来においても患者が薬剤師と面談できる時間・場所を提供できれば、患者の要望を満たしつつ、医師の負担を軽減できることが示唆された。

# まとめ

- 医師の診察時間は限られているため、医師に聞きたいことを十分に聞いていない患者が少なくないことが明らかとなった。医師の診察時間が短い現状において、病院薬剤師には医師と患者をつなぐ役割が求められていると考えられる。
- 抗がん薬の説明や副作用マネジメント以外にも、主治医に聞けずに悩んでいることに関する相談など、多岐にわたる患者への関わりが求められており、外来においても患者が薬剤師と面談できる時間・場所を提供できれば、患者の要望を満たしつつ、医師の負担を軽減できることが示唆された。

抗がん薬の説明や日常生活での相談などの患者ニーズに沿った取り組みを展開することで、医師・患者双方のメリットとなるタスク・シフト/シェアの効果的な推進に繋がる。

# 謝 辞

---

## 岐阜大学医学部附属病院 薬剤部

鈴木 昭夫 先生

飯原 大稔 先生

## 伊勢赤十字病院 薬剤部

三宅 知宏 先生

小川 晃宏 先生

岐阜大学医学部附属病院、伊勢赤十字病院、京都大学医学部附属病院で、本アンケートにご協力いただいた310名の患者さん